

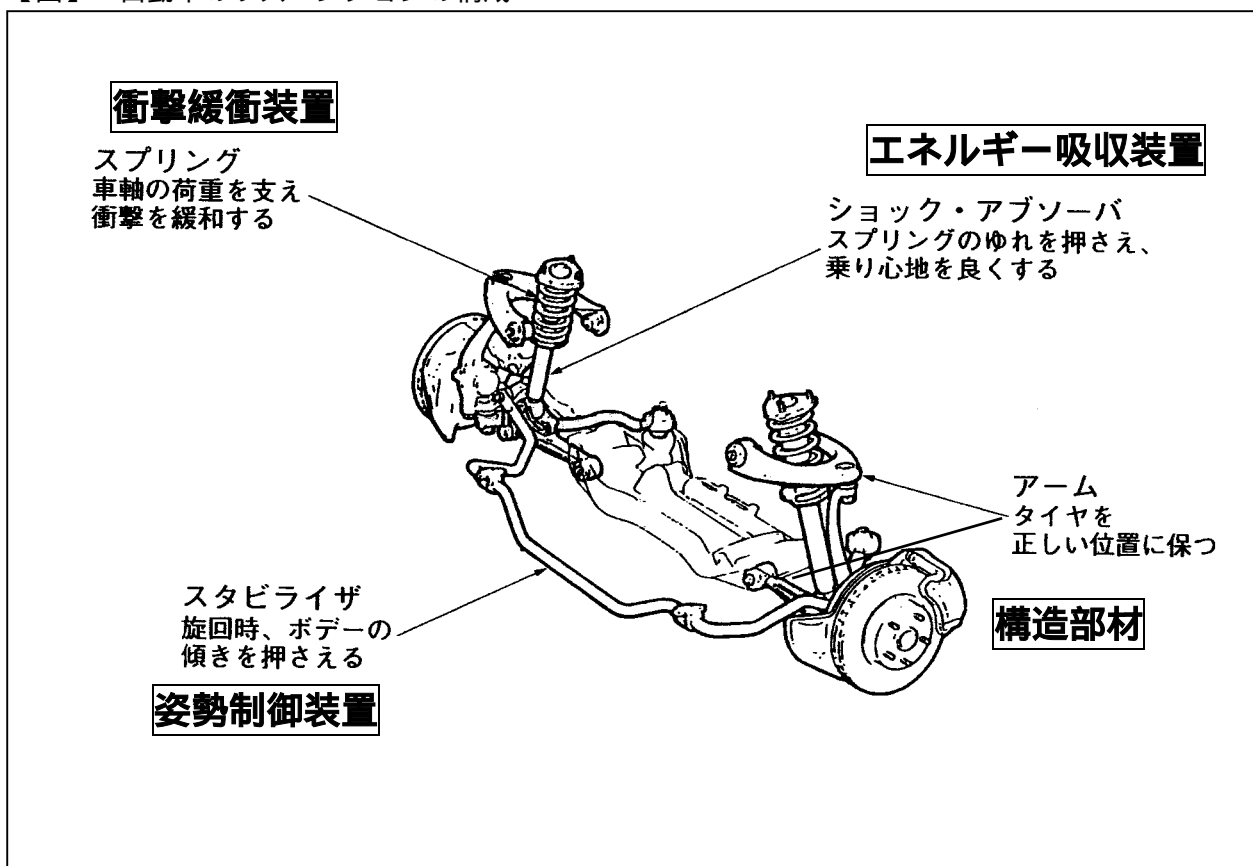
【技術分類】 1 1 - 1 - 1 自動車サスペンションシステム / サスペンション概要
/ サスペンション概要

【技術名称】 1 1 - 1 - 1 - 1 自動車のサスペンション装置概要(1)サスペンションの構成

【技術内容】

自動車のサスペンション装置は下図に示すように、サスペンションメンバ、アーム、リンク（ロッドともよばれる）などの構造部材、バネやゴムブッシュなどの衝撃緩衝装置、ショックアブソーバ等のエネルギー吸収装置、およびスタビライザ等の前後や左右のサスペンションを連携動作させる姿勢制御装置から構成されている。下図は独立懸架サスペンションの例であるが、車軸懸架式サスペンションにおいても同様である。

【図】 自動車のサスペンションの構成



出典：「シャシ構造 1-3 訂（自動車教科書）」、（2004/4/5）、全国自動車整備専門学校著、山海堂発行
頁 149-図 3-8

【出典 / 参考資料】

「シャシ構造 1-3 訂（自動車教科書）」、（2004/4/5）、全国自動車整備専門学校著、山海堂発行

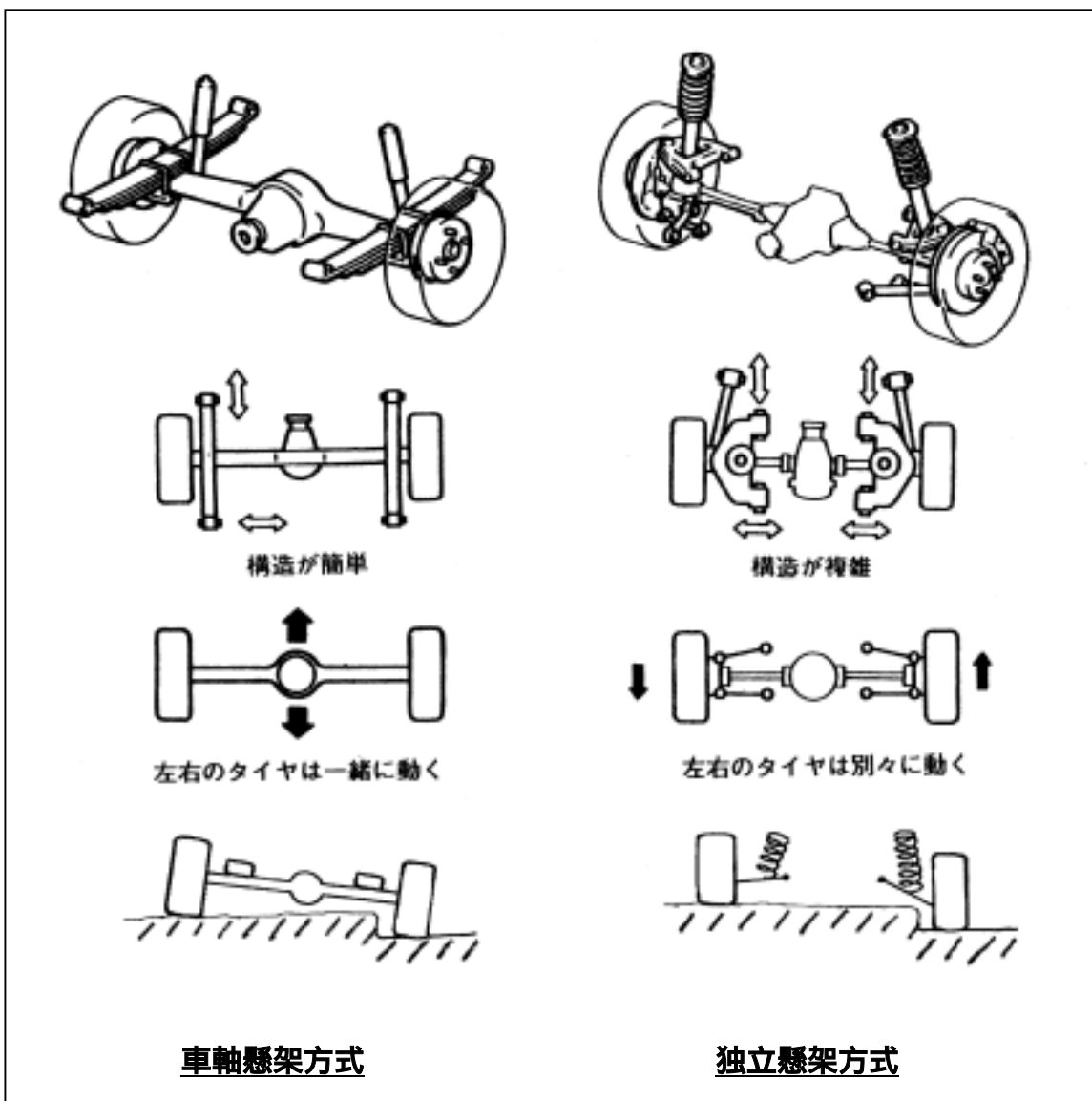
【技術分類】 1 1 - 1 - 1 自動車サスペンションシステム / サスペンション概要
/ サスペンション概要

【技術名称】 1 1 - 1 - 1 - 2 自動車のサスペンション装置概要(2)車軸懸架方式と独立懸架方式

【技術内容】

自動車のサスペンションは、左右の車輪を車軸（アクスル）で結合した車軸懸架式（リジッドアクスルサスペンション）と、左右のサスペンションが独立している独立懸架式（インディペンデントサスペンション）に大別される。車軸懸架式は車軸をサスペンション構成部材の一部として利用するもので、平行リーフスプリングを用いた車軸懸架式は、構造が簡単で強度的にも有利であるが、バネ下重量が重くなることから乗り心地には不利であり、積載荷重の大きいバスやトラックを中心に用いられている。独立懸架方式はバネ下重量の軽減がはかれ、また乗り心地と操縦安定性のチューニングの自由度も高いため、乗用車の前輪においては殆どが独立懸架方式を採用している。

【図】 車軸懸架方式と独立懸架方式



出典：「シャシ構造 1-3 訂（自動車教科書）」、（2004/4/5）、全国自動車整備専門学校著、山海堂発行
頁 148-図 3-6

【出典 / 参考資料】

「シャシ構造 1-3 訂 (自動車教科書)」(2004/4/5) 全国自動車整備専門学校著、山海堂発行